



【概要版】神戸港港湾脱炭素化推進計画（2025年3月）

1. 「CNP形成計画」からの主な変更点

CNP形成計画を港湾脱炭素化推進計画へと移行（港湾法改正（2022.12）に伴う）。

- ・CNP形成計画で定めた目標年次などに変更なし。

「港湾脱炭素化推進計画」作成マニュアル（2023.3、国土交通省）に基づき、以下の項目を更新。

- ・脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化の観点から新たにKPIを設定。
- ・具体化した事業（港湾脱炭素化促進事業）と、そのCO₂削減効果を設定。

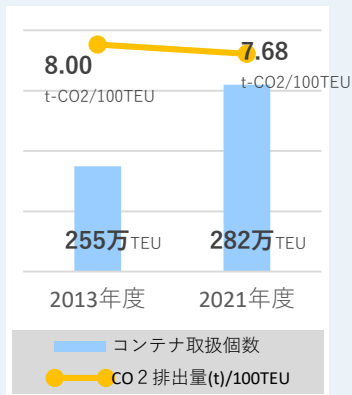
主な支援制度）国際戦略港湾及び国際拠点港湾の港湾運営会社が取得したガントリークレーン等に係る課税標準の特例措置

2. 温室効果ガス排出量の現状（KPIの設定）

- ✓ 対象エリアは下表3区分に分けて推計
- ✓ CO₂排出量は、基準年（2013）から減少（304万トン）

区 分		CO2排出量		CO2削減量
		2013年度	2021年度	
K P I	ターミナル内	2.9 万t	3.0 万t	+ 0.1 万t
	出入船舶・車両	18.6 万t	19.6 万t	+ 1.0 万t
	小 計	21.5 万t	22.6 万t	+ 1.1 万t
	ターミナル外	409 万t	105 万t	- 304 万t
	合 計	431 万t	127 万t	- 304 万t
参考	火力発電所※	780 万t	590 万t	- 190 万t

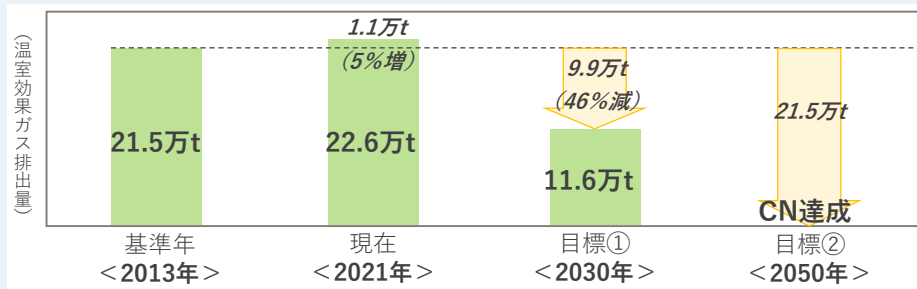
100TEUあたりのCO2排出量
「ターミナル内」「出入船舶・車両」の
合計値（その他除く）から試算



※『「港湾脱炭素化推進計画」作成マニュアル（国土交通省）』に基づき、区分して記載

3. 温室効果ガスの削減計画

2030年度目標	2013年度比46%削減	2050年目標	カーボンニュートラル（CO2排出実質ゼロ）
----------	--------------	---------	-----------------------



（参考）神戸港全体
2021年 127万t、2050年 カーボンニュートラルを目指す。

4. 脱炭素化の取組み方針

<2030年>
中短期の方針
・モーダルシフト推進（陸送→海上輸送等）、物流機能の更なる生産性向上強化（ターミナル一体化、AIターミナル、CONPAS等）
・LED導入やコージェネ等による省エネ化のほか、電化・再エネ利用の促進を通じた更なる排出量削減
・技術実証が進む、荷役機械などの水素燃料化の促進 など

<2050年>
長期の方針
・船舶燃料の低・脱炭素化を見据えた、LNG・水素・アンモニア等のバンカリング機能の導入
・中短期の社会実装が難しい、新たな脱炭素化技術への取組み
・産業プロセスの脱炭素化への転換や、水素・アンモニア・e-メタン等の導入促進 など

5. 主な港湾脱炭素化促進事業（具体事業を追記）

施設の名称（事業名）		実施期間	CO2削減効果
短期	タイヤ式門型クレーン（RTG）の水素エンジン換装実証事業	2024～	-
	陸上電力供給の導入	2023～	200 t/年
	環境配慮型船舶に対するインセンティブの導入	2021～	-
	ブルーカーボン生態系によるCO2吸収・貯留	2022～	3.1 t/年
中期	ガントリークレーン（インバーター方式）の導入	2025～	1,600 t/年
	港湾施設のLED化	2024～	2,700 t/年
	公共上屋等への再生可能エネルギー由来電力の導入	2024～	300 t/年
	CONPAS導入拡大	2024～	100 t/年
	神戸市港務艇の脱炭素化	2026～	200 t/年

6. 脱炭素化の取組みイメージ

